



令和4年度 第2回研修会報告

テーマ：主体としての学び手と支える教育観

講師：北海道大学大学院教育学研究院 守屋 淳 先生

日時：令和4年11月6日(日) 対面20名参加 リアルタイム配信研修33名参加
令和4年11月22日(火)～令和5年1月5日(木) オンデマンド研修167名参加

講演内容

今回は30年にわたって教育現場に関わり、年間40日程度授業を参観し、その授業に見られる事実と、先生方のあり方から導き出された教育について、守屋淳先生に動画やグループワークを含めて講演していただきました。

今回の研修は、大阪府看護部長会の臨床の方々との合同研修会となり、多くの方々にご参加いただきました。

先生は、教育の基本は「子どもが学ぶ主体であり、教師はそれを支える存在である」ということを確信として、教育観を「支える教育観」と名付け、「与える教育観」「放っておく教育観」と対比して論じられました。

教育は「支える教育観」に基づかなければならない、「支える教育観」には、「子どもが主体である」「子どもは本来自ら進んで学ぼうとする存在である」、また「自ら進んで学ぼうとするときに、子どもは最もよく学び、また学んでいくことが身につくのだ」と話されました。

「学びの共同体」では一人ひとりの学ぶ権利を保障するためにグループを活用し、子ども同士の学び合う力を借りるのであって、グループで一つの答えを出そうとするのではない、と新しいグループワークの考え方、方法について学ぶことができました。

講演後の臨床の方と教員の合同グループワークでは、活発な意見交換や質問に対しての守屋先生の回答があり、学びが深まりました。

振り返り

今回はリアルタイムとオンデマンドを併用した研修となりました。アンケートでは113件の多くの感想、意見が寄せられました。「グループワークでは臨床現場と学校で教育するそれぞれの立場からディスカッションができて有意義でした」「グループで話し合い、学生同士が学び合う具体的な方法を知ることができた」という意見や、「グループワーク終了後は質疑応答の時間があり学びの補完となった」「オンデマンド研修では時間が有効活用できた」という意見が多くありました。またアンケート回答後の守屋先生の優しさを感じられるおまけ動画は大変好評でした。これからも会員の皆様のニーズに応じた様々な研修を企画していきたいと思っております。

